

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、21～25℃台を示し、平年並みでした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——西彼地区では、マイワシなどが1日1統当たり23トンの水揚げで、前週の2.3倍（前年を上回った）。五島奈留地区では、マアジが1日1統当たり3トンの水揚げで、前週を上回った（前年を上回った）。北松南部地区では、ウルメイワシなどが1日1統当たり19トンの水揚げで、前週の1.7倍（前年並み）。
- イカ釣——スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり15kgの水揚げで、前週並み（前年並み）。壱岐勝本地区では1日当たり1.7トンの水揚げで、前週を上回った（前年を上回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり98kgの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。壱岐勝本地区では1日当たり2トンの水揚げで、前週を上回った（前年を上回った）。五島奈留地区では、1日1統当たり1kgの水揚げ（前年を下回った）。
- 定置網——五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり927kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ケンサキイカなどが1日1統当たり146kgの水揚げ。
- 一本釣——北松宇久地区では、ヒラマサが1日当たり350kgの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（10/14～10/18の5日間）の沖合イカ釣（船凍船）は、再び大和堆周辺で操業。沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～山陰沖～能登半島沖～佐渡沖～山形沖で操業。鳥取県西部（沖合船）では4日延71隻、総計16,870箱、1航海最高557箱、平均237.6箱。スルメイカ（20～30入）16,860箱、ケンサキイカ（2立半～4立）10箱の混獲となった。なお、赤イカは北太平洋で操業。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>